



学校だより

9月号(第05-06号)

令和5年9月28日

横浜市立高田中学校

校長 横田 由美子

TEL : 5 9 1 - 4 1 8 3

働き方改革～より良い学びのために

AI時代の社会を生き抜くためには、子どもたちは知識だけではなく学び方を学び、自身が主体者として学びに取り組む力を育んでいくことが重要になります。お互いの考えを表現し考えを深めあえるような協働的な学びや、課題を発見して、正解が見えなくとも向き合い解決していこうとする力や非認知能力、創造力の

育成も益々必要です。変化する社会の動きを教室に取り入れたり、生徒たちの考えを社会の眼で見てもらったりと、社会とつながる機会をつくることや、教育の場で頻繁に耳にするようになってきた教育DX (Digital Transformation) も重要です。教育DXとは、「デジタル技術を用いて、カリキュラムや学習の在り方を革新し、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を時代のニーズに変革し、新しい時代に必要となる力を育てるために教育現場をより良くしていく」ことです。例えばICTを利用した生徒同士の考えの共有・理解や、個人毎に学びやすいやり方や、理解度・進度に合わせた課題への取組や、将来的に指導者側で、9年間通した学習データを確認・教育に利用していくこと、なども、教育DXの一例です。



時代が求めるニーズの下、子ども主体の新しい学びとはどうあるべきか、どう取り組んでいけばよいのかと、教員たちは忙しい毎日の中で、心と頭を悩ませながら努めています。教員のゆとりは子どもの輝きに直結します。時間と心と体の余白が生まれることで、教員は豊かな経験を重ねられ、新しい情報やスキルを学ぶことができ、創造的な授業研究や生き生きとした学びあいにつながり、目の前の子どもたちへのより良い学びにつなげられます。学校が「教職員が健康でゆとりをもち学び続けられる魅力ある職場」であることが本来必要です。深刻化する教員不足、教員希望者減にストップをかける側面からも猶予はありません。

高田中学校では、コロナ禍に一部行事のスリム化などを行いましたが、今後も未来の創り手を育む教育目標である「ストリートスマートの育成」の軸をぶらさずに、業務の優先順位を踏まえた精選・見直しを図り、同時に、「教師が教師でなければできない業務」に集中できるように少しずつ変わっていかれたらと思います。

8月28日、中教審から働き方改革に関する提言が出され、翌日には文部科学省が「国が働き方改革の先頭に立つ」との大臣メッセージを発表し本気度を表しました。これら改革は学校だけで叶えることは厳しく、大臣メッセージにもありましたが、国・委員会・学校・家庭・地域・社会など、関連者が「自分の立場と役割に沿って出来ることをやる姿勢と役割分担」等が欠かせません。高田中ではこれまでも保護者・地域の皆様に教育活動を様々に助けていただいております。今後、一層お知恵やご支援をお願いする場面、時にご不便をお掛けする場面が出てくるかもしれませんが、引き続きご理解とご協力をお願いします。

【令和5年度高田祭に向けて】

10月19日（木）に合唱コンクール、
20日（金）に高田祭文化の部が開催となります。

6月の生徒総会で決定した今年度の高田祭スローガンはP i e c e。生徒一人ひとりをパズルのピース(Piece)に例え、皆で集まって一つのものをつくるという意味と、楽しくて思わずピース(Peace)したくなるような高田祭をつくろうという思いが込められています。



今年の合唱コンクールは実に4年ぶりに全学年生徒が体育館に集まっての開催です。今年も学校の各所で合唱コンクールに向けた歌声が響いています。高田祭の2つの行事を通して子どもたちが学びの成果発表を存分に楽しみ、個々としても、クラスとしても、学年としても、学校としても存分に更に学んでいける機会にしてほしいと願っています。

【個別報：港北区合同宿泊学習会 in 上郷森の家】

5, 6組の生徒達は、9月5日（火）から6日（水）にかけて、港北区の合同宿泊学習会に参加しました。この宿泊学習会は、コロナ禍前は毎年実施されていましたが、ここ3年間は実施されておらず4年ぶりの実施となりました。

私たち高田中学校は、日吉台西中学校と樽町中学校の個別支援学級の生徒達と一緒に上郷森の家で二日間を過ごしました。一日目の「野毛山動物園」では、班活動を行いました。しおりにある動物クイズの答えをみんなで探しながら園内を散策し交流を深めました。

宿泊先の上郷森の家では、班対抗のレク活動を行い、大いに盛り上がりました。

今回の、宿泊学習の目標は、「自分のことは自分で行う」「友達と協力しよう」「自分から行動しよう」の三つでした。生徒達は、食事、入浴、就寝準備等の活動の中で、これらの目標を意識し



て生活することができました。また、共同生活を行う上で大切な「周りのことを大切にする」「友達を気遣う」「友達に合わせる」ことを今回の宿泊学習を通して学びました。

事後の振り返りでは、いつも一緒にいる仲間と寝食を共にできたことがとても楽しかったようで、今から来年度の宿泊学習をととても楽しみにしている様子が伺えました。クラスの絆もさらに深まり、今まで以上に仲良く生活できることと感じます。また、今回、自分たちの班をまとめてくれた先輩のような班長、副班長になりたいという気持ちが芽生えた子もいました。来年度の宿泊学習を意識して、今まで以上に率先して活動したり仲間に声かけしたりとリーダーシップを発揮して頑張る子が増えました。

新たな目標ができ、それに向けて日々頑張る姿は見えてとても気持ちのいいものです。宿泊学習が、個々の成長のきっかけとなったことが担任としてとてもうれしく思います。これからもまだまだたくさん行事が予定されています。様々な経験を通して一回りも二回りも成長してほしいと思います。

(個別級担任 城戸 ゆりか)

【生徒会企画ドッジボール大会】

26日(火)～28日(木)の昼休みに生徒会企画のドッジボール大会が開かれました。初日の26日(火)には、ルール説明のあと、ジャンプボールで試合が開始されました。中学生の先輩の球はさぞや重かったのではないのでしょうか。学年の壁を越えて交流できる貴重な時間でした。



【全国学力・学習状況調査 結果について】

4月18日(火)に、3年生を対象として実施された全国学力・学習状況調査(国語、数学、英語)の結果について報告いたします。

学校行事や日常活動などを通して、一人ひとりを大切にしながら、自他の良さを認め合える環境作りを意識して、子どもたちが持ち味を生かして主体的に活躍できる学校となるように指導・支援をすることで、より充実した教育活動となるようにしていく必要があると思います。

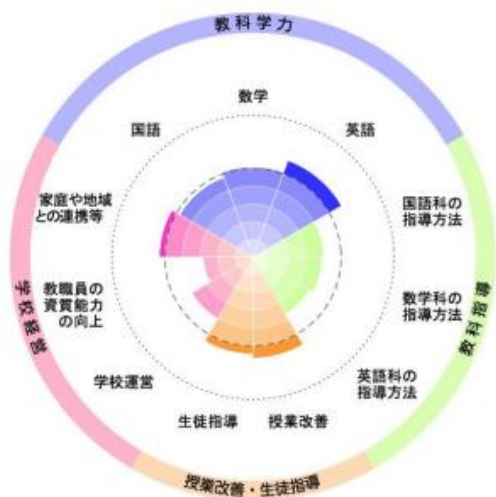


図1. 学校質問紙（全国基準との比較）



図2. 生徒質問紙（全国基準との比較）

図1，図2とも内側の破線上の円は、全国基準値を表しています。図2（生徒質問紙）から、教科学力において数学が概ね全国基準値に達しており、英語では全国基準値を超えており、逆に国語では全国基準値に達していないことがわかります。「英語への関心等」が全国基準より上回っていることと教科学力の相関性が見て取れます。「授業は、自分にあった教え方，教材，学習時間などになっていますか」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができますか」「先生は，授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて，分かるまで教えてくれていると思いますか」の質問項目では全国基準を下回っており、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現や「個別最適な学び」の充実という視点での授業改善が引き続き課題となっている様子が伺えます。一方、「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問では「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えた割合が全国基準と比較して上回る結果となっており、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問では「役に立つと思う」と回答した生徒が7割近くとなっており、ICT機器を活用する場面を増やすことによる授業改善が進んでいる様子が見えます。

「自己有用感」についての結果では、「自分には，よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では8割近く、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「人が困っているときは，進んで助けていますか」の質問では9割以上の生徒が肯定的な回答をしており、自分に対する自信や他者との関わりに対して前向きに捉える生徒が多い様子が見えます。今後も学校の活動を通じて多様な主体と関わる場面を設けることで、生徒の社会的・職業的自立に向けて、自分の役割と責任を自覚し、社会に関わろうとする意識を高められることが期待されます。一方、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問では「当てはまる」と回答した生徒が26%にとどまり、全国基準から下回る結果となっています。